

# FUN FOR



バンダイナムコグループの  
CSR活動報告2014

# THE FUTURE!

**FUND FOR THE FUTURE!**



## 楽しみながら、楽しい未来へ。

バンダイナムコのCSRは、楽しみながら、楽しい未来をつくる活動です。

私たちの仕事は、一人ひとりの心の中に生まれた「夢・遊び・感動」のアイデアを、大勢の手でカタチにして、一人ひとりのお客様の心を響かせること。

そして、その「夢・遊び・感動」は人の心を癒し、励まし、世界にひろがることで、世の中を変えることも、未来を変えることもできると信じています。

バンダイナムコグループは「夢・遊び・感動」をお届けする企業として、地球環境や社会とのかかわりについて、

“Fun for the future! 楽しみながら、楽しい未来へ。”を合言葉に、社会とステークホルダーのよろこびにつながる活動を推進し、楽しい未来づくりに貢献していきたいと思えます。

エンターテインメントが社会に対してできること、それは、心が心を響かせて楽しい未来をつくることです。

# バンダイナムコグループのCSRマネジメント

バンダイナムコグループでは、「夢・遊び・感動」の提供を実現するため、「Fun for the future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」をコンセプトにCSR活動を行っています。

また、特に重点的に取り組む必要があるテーマを「バンダイナムコグループのCSR重要項目」とし、

さらにSBU（戦略ビジネスユニット）の活動レベルに落とし込んだ「CSR重点取り組みテーマ」を策定して、各事業特性を活かした活動を行っています。

→ CSR重要項目の詳細は13ページをご覧ください。

## バンダイナムコグループのCSR方針



## バンダイナムコグループのCSR推進体制

2010年度より、グループCSR委員会のメンバーを各SBU主幹会社の社長とし、スピード感をもって決断し、事業と一体となるCSR体制を強化しています。また、2011年度からは、グループCSR委員会の下部組織であったグループ環境部会とグループ社会貢献部会を統合し、環境・社会貢献に限らず、CSR重要項目に沿った取り組みの進捗管理・情報共有を行うグループCSR部会を設置、さらに各SBUのCSRプロジェクトにて、事業特性を活かし、より具体的な取り組みを推進しています。

CSRに関する事項の決議・報告

### バンダイナムコホールディングス 取締役会（適宜）

報告事項・検討事項

グループ経営会議（四半期）

グループCSR委員会（半期）

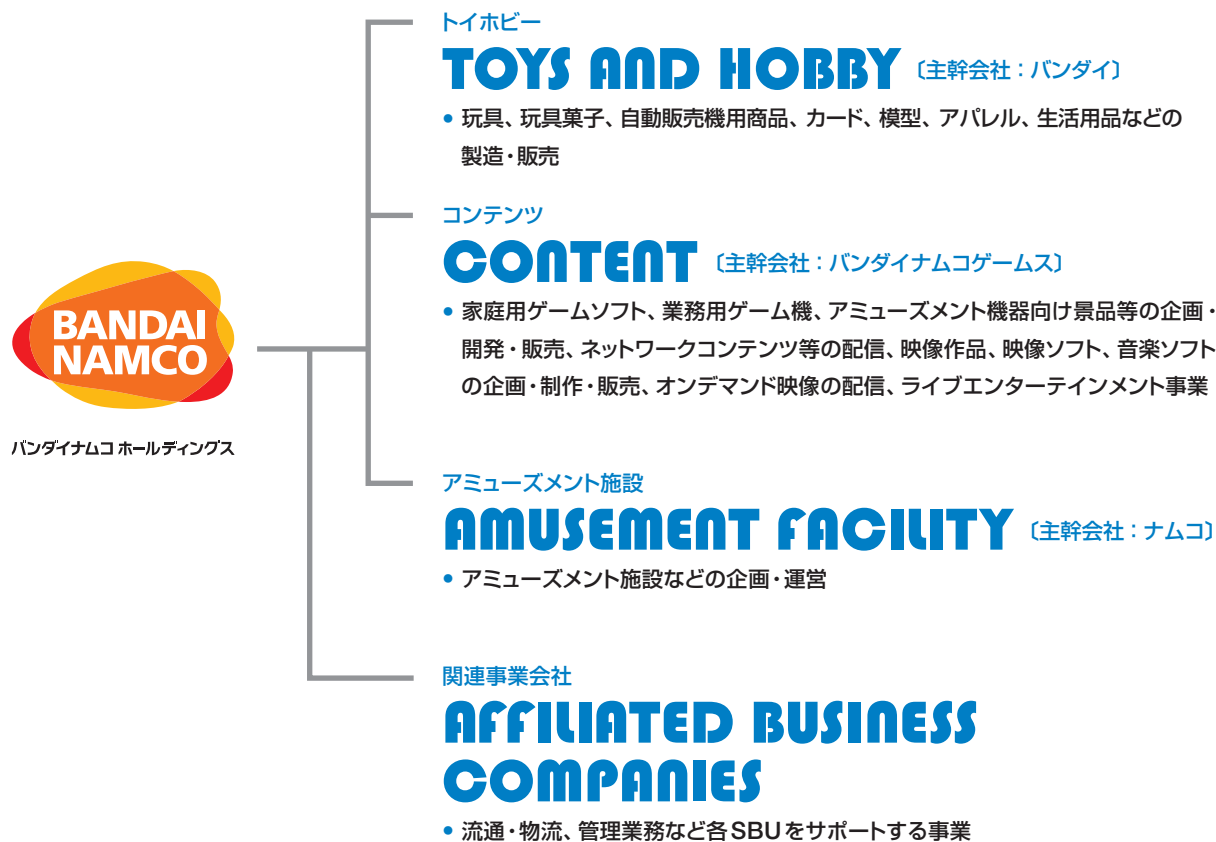
グループCSR部会（四半期）

各SBUのCSRプロジェクト

# グループ組織体制

バンダイナムコグループは、純粋持株会社であるバンダイナムコホールディングスのもと、3つの「戦略ビジネスユニット(Strategic Business Unit : SBU)」と各SBUをサポートする関連事業会社から構成されています。事業会社の集合体であるSBUが、国内外における事業戦略を策定・実行し、多彩なエンターテインメントを人々に提供しています。

## 戦略ビジネスユニット (SBU)



## 特集 IP軸で見る「楽しい未来」づくり 6

- ① 「機動戦士ガンダム」シリーズ
- ② 「たまごっち」シリーズ
- ③ 「仮面ライダー」シリーズ

社長メッセージ	5
バンダイナムコグループのCSR重要項目	13
バンダイナムコグループの被災地支援活動	17
FACTS & FIGURES	18
各SBUの重点取り組みテーマ 2013年度進捗報告	19
人事関連情報	21
環境関連情報	22
コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	23
リスクマネジメントと情報開示	24
財務・業績ハイライト	25
会社情報ほか	26





株式会社バンダイナムコホールディングス  
代表取締役社長

石川 祝男

## 社長メッセージ

# 「夢・遊び・感動」を お届けする企業として、 エンターテインメントが できることを追求していきます。

バンダイナムコグループでは、社会とステークホルダーのよきこびにつながる「楽しみながら、楽しい未来」をつくる活動を、CSRと位置づけています。「楽しい未来」のために、地球環境や社会とのかわりにおいて、エンターテインメント企業ができることに取り組んでいきたいと考えています。

バンダイナムコグループの最大の強みである「IP軸戦略」は、何よりもIP\*のもつ魅力を最大限に引き出すことを目的としています。そのために、IPの世界観を活かした商品・サービスを展開する中で、地球環境や社会に配慮した取り組みを行うことも大切なことのひとつです。今回のCSR活動報告では、私たちが展開する代表的なIPを軸に、バンダイナムコらしい活動をご紹介します。

バンダイナムコグループは、社会の一員であることを自覚しながら、エンターテインメント企業としての責任と誇りをもって、「Fun for the future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」をコンセプトに、「楽しい未来」づくりに貢献できる活動を進めてまいります。

\* IP: Intellectual Propertyの略で、キャラクターなどの知的財産のことを指します。

## SPECIAL FEATURE

# IP軸で見る「楽しい未来」づくり

バンダイナムコグループは、多くのお客様に愛されているIPを、多彩な事業領域へと展開することで、IPの価値を最大化し、お客様に「夢・遊び・感動」をお届けしています。今回は、「機動戦士ガンダム」「たまごっち」「仮面ライダー」の3つのIPを軸にして、商品・サービスを提供する上で取り組んでいる、さまざまなCSR活動についてご紹介します。

### 「IP軸戦略」とは

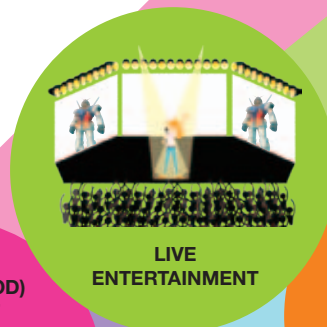
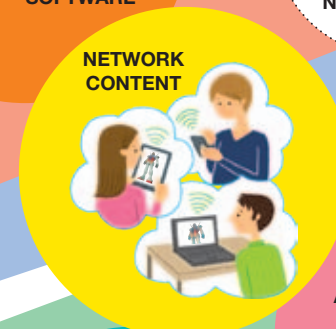
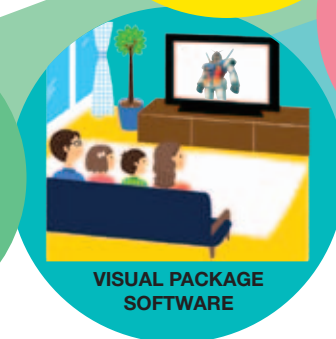
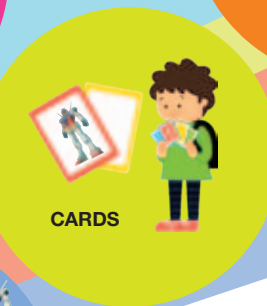
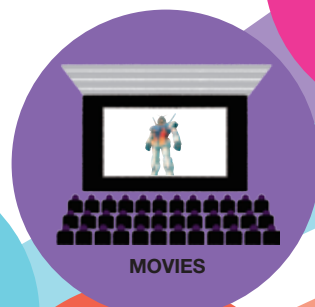
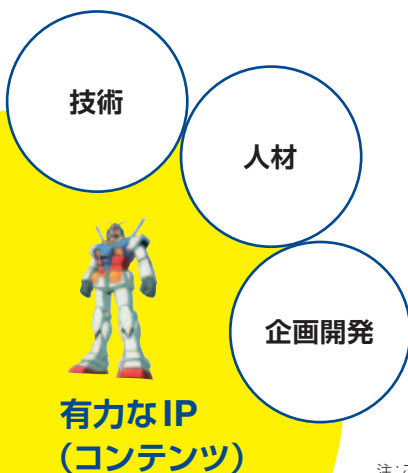
幅広い事業領域を活かし、最適なタイミングで、最適な地域へ、最適なターゲットに向けて商品・サービスを提供していくことで、IPの価値最大化を図るといふ、バンダイナムコグループ最大の強みです。



有力IPの  
価値を最大化



NEW DEVICES



注：この概念図は、IP軸戦略による事業展開の一例です。

# 「機動戦士ガンダム」シリーズ



2014年でアニメ放映開始から35周年を迎えた「機動戦士ガンダム」は、幅広い年齢層のお客様に長く愛されているIPとして、グループ全体でも多くの商品・サービスを展開しており、それに関わるCSR活動もさまざまです。

## バンダイナムコオンラインの表現の統制とガイドライン

「機動戦士ガンダムオンライン」などのオンラインゲームを開発、運営しているバンダイナムコオンラインでは、エンターテインメント性を失わずに守るべきルールは守る、というバランスを取りながら、表現の統制を行うよう心掛けています。

2013年度には、それまでに蓄積したノウハウをまとめ、運営・サポート・制作という3つのカテゴリでガイドラインを作成し、企業としての品質向上を目指しています。

ガイドラインの運用においては、以下のような点に留意しています。

- 社内周知はメールではなく、ガイドラインを印刷し、口頭で説明する。
- 内容に変更があった際は即時更新し、必ず最新の情報が掲載されている状態を保つ。
- 常に同一のフォーマットにまとめ、情報分散防止に努める。

### 担当者インタビュー

#### 柴田 崇

株式会社バンダイナムコオンライン  
事業本部 マネージャー  
(品質保証、QA・デバッグ)

オンライン業務にはスピード感が求められますが、その利点を活かし、常に新鮮な情報を各部署と連携し、共有することでサービス向上に努めています。

ガイドライン制作では、法律に関する表現など難しい言葉も多く、そのままの記載ではわかりにくく、活用してもらえない可能性がありますので、画像を用いて見やすくしたり、過去の事例を挙げてわかりやすくするなどの工夫を行いました。

今後は、各グループ会社との連携を強化し、ガイドラインも各社の品質保証部門間で、目線を合わせていきたいと考えています。



大規模オンラインが楽しめるPC用ゲーム  
「機動戦士ガンダムオンライン」





## バンダイホビーセンターの グリーンファクトリーへの取り組み

「機動戦士ガンダム」のプラモデル(ガンプラ®)を生産している「バンダイホビーセンター」は、「NO! pollution production」を合言葉に、“地球環境にやさしい工場で、無公害生産をする”ことを宣言しており、壁面に太陽光パネルを設置したり、廃棄物・廃熱をゼロにする「ゼロエミッション」を目指すなど、グリーンファクトリーへの取り組みを積極的に行っています。



わたしたちは  
地球環境に  
やさしい工場で、  
無公害生産を  
することを  
宣言いたします。



壁面に設置された  
太陽光パネル

## 「ガンダムカフェ」のエコな活動

「ガンダムカフェ」は機動戦士ガンダムの世界観を楽しんでいただけるエンターテインメント性あふれるカフェです。ごみの分別など、環境に配慮したカフェ運営を心がけるのはもちろん、お客様とともに、エコな活動にも取り組んでいます。

「ガンダムカフェ」の情報は公式HPまで  
<http://g-cafe.jp/>

### エコ&マイカップ キャンペーンを実施

マイカップをおもちいただいたお客様に、割引サービスを実施し、非売品のお茶プラ・ミニキットをプレゼントするなど、楽しんでいただきながら、環境負担の軽減に向けた取り組みを促進しています。



### お茶プラ・ミニキット

使用済みの茶葉から緑色の天然色素を取り出す技術を使い、ガンプラ®を着色したのが「お茶プラ」です。「バンダイホビーセンター」が、お茶が名産の静岡県にあることから、バンダイのエコ活動をご紹介するために特別に製作しました。

(秋葉原店のみの実施。なくなり次第配布終了)



### 商品のリユース化

容器の可愛らしさが人気の「ハロ」をモチーフにしたお土産商品は、食べ終わった後、リユースしていただけるよう、紙製からスチール缶に変更して耐久性を向上しました。

改善前



改善後



# 「たまごっち」シリーズ

1996年に発売し、一大ブームとなった「たまごっち」。  
 バンダイでは現在でも幅広い世代のお客様に愛されている、この「たまごっち」というIPを通じ、  
 ワークショップや環境情報の発信など、さまざまな活動を行っています。



注：「たまごっち」シリーズは、(株)バンダイと(株)ウィズの共同企画・開発商品です。

## バンダイの 環境活動推進に 対する考え方

“おもちゃ”で夢を創造するバンダイは、  
 お子様の夢が未来にも続いてほしいという  
 思いを含め、おもちゃづくりの中にも  
 しっかりコツコツと環境配慮を  
 取り入れています。  
 また、その思いを全社で共有することが  
 環境推進につながると考え、  
 社内を横断したプロジェクト活動などを  
 積極的に実施しています。

### “かんきょうたいしくちぱっち”を アイコンにした環境広報活動

2007年に、環境活動を楽しく伝えられるよう「たまごっち」のキャラ  
 クター「くちぱっち」を“かんきょうたいし”に任命しました。この“かん  
 きょうたいしくちぱっち”をアイコンとして据えることで、お子様だけ  
 でなく、保護者の皆様にもバンダイの環境活動について、より親しみ  
 をもっていただけるようになりました。



ワークショップを通じて、  
 バンダイの環境に対する  
 取り組みをお伝えしました。

### お子様向けワークショップの実施

リユースをテーマにしたワークショップを  
 日本各地で開催しています。2013年度は  
 ガシャポン®のカプセルと、墨田区の工場か  
 ら出る配材(廃材)を組み合わせたスタン  
 プ工作进行しました。ワークショップでは  
 参加者の皆様にバンダイの環境に対する  
 取り組みもお伝えしています。



はいざいからつくった  
 「カプセルはんこ」!

担当者  
インタビュー



小寺 恩  
株式会社バンダイ  
プロダクト保証部 環境広報担当

バンダイの環境活動を、次世代を担うお子様たちとその保護者の皆様にわかりやすく、親しみのもてる表現で伝達できるように日々「かんきょうたいし くちぱっち」と活動をしています。

2013年度より、バンダイの環境活動を学びながら、エコな工作にチャレンジできる「おもちゃのeco学校」を展開し、イベント会場を中心に約3,500名のお子様に参加していただきました。今後はこの活動の輪を小学校の土曜授業にも拡大し、より多くのお子様にバンダイの環境活動について楽しく学んでいただける機会を提供していきたいと考えています。



Facebookで情報発信!

“かんきょうたいし くちぱっち”が、バンダイや日本のエコにまつわるニュースや、家庭でできるエコアクション情報などを楽しくお伝えします。



Facebookでエコな情報を発信!

“かんきょうたいし くちぱっち”のFacebookはこちら



<http://www.facebook.com/bandai.eco.kuchipatchi>

“バンダイ エコ・くらぶ”のHPはこちら



<http://www.bandai.co.jp/kids/eco/>

たまごっちデパートでの環境活動

「たまごっち」のオフィシャルショップ「たまごっちデパート」でも、ご来店いただいたお客様に向け、さまざまな活動を行っています。



夏休み期間中、“かんきょうたいし くちぱっち”のサンバイザーを配布し、バンダイの環境活動についてアピールしました。



店舗内の照明をLED化し、電気使用量を67.6%削減しました。

2012年度  
100,863kwh  
↓  
2013年度  
32,693kwh



「くちぱっちのエコアクション」を商品パッケージに掲載し、身近にできる活動について情報発信しました。

# 「仮面ライダー」シリーズ

1971年に誕生し、今もなお愛され続けている子どもたちのヒーロー「仮面ライダー」。  
バンダイナムコグループでもさまざまな形で商品・サービスを展開しており、  
小さなお子様にも安心して遊んでいただけるような商品・サービスの提供を心がけています。

## 「仮面ライダーアクションスタジアム」の安全・安心への取り組み

「仮面ライダー」の世界観を演出した遊具やアトラクションなどを多数揃え、1～8歳のお子様が「仮面ライダー 鎧武/ガイム」になりきって遊べる「仮面ライダーアクションスタジアム」。各種アトラクションに加え、玩具体験コーナーや、ライダーのリアルコスチュームを着用して写真が撮れるフォトコーナーが人気となっています。この施設では、お子様が安心して遊べるよう、さまざまな配慮を施して安全を守っています。



### 遊び盛りのお子様が ケガをしないように

1～8歳の遊び盛りの男の子がメインターゲットとなっているため、遊びに夢中になって遊具などにぶつかることもあります。そのため、どこかにぶつかってもケガをしないような工夫を行っています。



エア遊具の出入口は段差になっているため、クッション材を設置しています。



モニター台の角部には、保護材を装着しています。



写真撮影のためにお子様が着替えるコスチュームも、やわらかな素材でできています。



走って出てくるお子様もいるため、出口付近の柱にはクッション材を設置しました。



入口のショーケースは、角部を無くして制作しました。





鮫島 智規

株式会社ナムコ NAMCOLAND鳳店  
シニアストアマネージャー

## お客様から“来て良かった” と言っただけの空間づくりを

私たちの仕事で重要なことは、ゲーム機や遊具が常に正常な状態で、お客様にご利用いただける環境を整えることです。お客様は楽しい時間を過ごすために来店されるので、可能な限り心地よい空間づくりをすることがとても大切です。そのためには、もちろん安全面への配慮が欠かせません。設備などに不具合が生じていないかなど、定期的な点検を確実にしています。また、スタッフには、特に未就学児などの幼いお子様がケガをしないように注意深く見守るよう教育しています。

スタッフの接客や、掲示物、ゲーム機のレイアウトなど、お客様に楽しんでいただける工夫を行い、お客様から“来て良かった”、“また来るよ”といった声をいただけることが、私にとっての大きな喜びです。

## 環境配慮設計

### 「エコアミューズメント」の取り組み

バンダイナムコゲームスは、国内で販売する業務用ゲーム機を対象とした「環境配慮設計ガイドライン」(2012年1月策定)に設けられた以下の4つの基準のうち、一定レベルをクリアした製品を「エコアミューズメント」と認定しています。この取り組みは、従来行ってきた環境配慮設計を、より一層推進していくものです。これからもバンダイナムコゲームスは製品やサービスにおける安全性を徹底的に追求するとともに、環境問題への対応や品質の向上にも取り組んでまいります。



男の子に人気の「データカードダス 仮面ライダーバトル ガンバライジング」もエコアミューズメントに認定されています。

### 4つの基準と具体例

	具体例
<b>化学物質管理 (安全な素材の利用)</b> BNGグリーン調達基準に沿った 部材選定、化学物質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>「BNGグリーン調達基準適合」を確認するために、構成部材の含有化学物質のデータ入手に努め、製品含有化学物質情報が整理されている。</li> </ul>
<b>省エネルギー</b> 省エネ部品の採用、省電力設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>LED照明やLCD等の省エネルギーと考えられる部品を積極的に採用している。</li> <li>省電力のための制御(モード)を仕様に取り込んでいる。</li> </ul>
<b>省資源</b> 省資源のための独自の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品梱包材の使用量(重量)を把握し、最小限の梱包材を使用している。</li> </ul>
<b>リサイクルしやすい設計</b> リサイクルを考慮した材料・設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品で使用する主要成形品(材料表記できるサイズの樹脂成形品)について、材料を明示している。</li> <li>主要部品(システム基板のラック、外観部品等)が解体または取り出しやすい設計を行っている。</li> </ul>

注：上記具体例は一例です。

2012年12月以降に発売された新製品(キット製品等を除く)が対象になります。

左記の項目に基づき、一定基準をクリアすることで、「エコアミューズメント」に認定されます。



Eco amusement

# バンダイナムコグループのCSR重要項目

## ★ CSR重要項目の抽出

4つのCSR重要項目は、有識者へのヒアリングや、各種外部調査レポートをもとにリストアップした、バンダイナムコグループに求められるCSR活動の68項目のなかから、GRIガイドラインなどの各種規格の観点を踏まえ、抽出しています。

<b>1</b> 商品・サービスの安全と衛生	<b>2</b> 環境配慮	<b>3</b> コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	<b>4</b> サプライチェーン管理
私たちがお届けする「夢・遊び・感動」の基盤となる商品・サービスの安全と衛生の向上について、最優先に努めていきます。	「夢・遊び・感動」を次の時代につなげるために、地球環境に配慮し、企業活動におけるエネルギー削減や商品・サービスにおける省資源化に努めていきます。	世界中の人々へ「夢・遊び・感動」をお届けするため、「表現の自由」の尊重とともに、多様なコンテンツや商品を適切にお客様にお届けするよう努めていきます。	私たちがお届けする「夢・遊び・感動」の質的向上のために、それぞれの事業に対応したサプライチェーンの管理向上に努めていきます。

## ★ 各SBU・関連事業会社の重点取り組みテーマ 注：CSR重要項目に該当する事業領域がない場合は空欄となっています。

「CSR重要項目」を、より具体的な活動にするために、各SBU・関連事業会社で「重点取り組みテーマ」を策定しています。2013年度は以下のテーマを掲げ活動しました。

→ 具体的な活動内容と結果報告については、14～16ページをご覧ください。

\* BLP：バンダイロジパル・LPX：ロジパルエクスプレス

CSR重要項目	トイホビー SBU	コンテンツSBU	アミューズメント施設SBU	関連事業会社*
<b>1</b> 商品・サービスの安全と衛生	安全・安心への取り組み	グリーン調達推進／品質基準の推進	健全な売り場の醸成／青少年の社会学習	【BLP/LPX】安全運転により車両事故を抑制し、貨物を遅滞なく届ける 【アートプレスト】安全・安心の製品提供
<b>2</b> 環境配慮	Act. Now for Future Smiles (笑顔のためにできること)	環境配慮設計への取り組み／製品リサイクル	環境データの把握／CO <sub>2</sub> 削減・省エネ施策／省エネ法・温対条例対策／環境意識啓発	【BLP/LPX】車両より排出するCO <sub>2</sub> の抑制と事業所の節電によるCO <sub>2</sub> 排出の抑制 【アートプレスト】使用部材の把握
<b>3</b> コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	コンテンツ・商品における倫理表現の統制	コンテンツの適切な言語表現の統制	—	—
<b>4</b> サプライチェーン管理	労働規範監査(COC監査)	グリーン審査／COC監査／サプライヤーへの情報発信	—	【BLP/LPX】一貫物流サービスの展開 【アートプレスト】工場登録の管理

## 商品・サービスの安全と衛生

### ★ 製品安全を考えるフォーラムの開催

安全な商品をお客様にお届けするため、社員を対象に、過去の製品不具合の事例やお客様の声など、さまざまな情報の提供・共有を行っています。



バンダイで開催したプロダクトセーフティフォーラムでは、外部講師による講習や展示会を実施しました。



バンダイナムコゲームス、バンプレストで製品の不具合に関する展示会を開催しました。

### ★ お客様相談センターのサービス力向上

バンダイでは、お客様相談センターのサービス力向上を目的に、外部表彰制度へ参加し、審査結果などを踏まえ、今後のさらなる改善につなげています。2013年度は、2つの賞をいただきました。



IT協会主催「優秀コンタクトセンター表彰制度」奨励賞を受賞しました。



コンピューターテレフォニー主催「コンタクトセンターアワード2013」審査員特別賞を受賞しました。

### ★ トイホビーグループ情報交換会を毎月開催

トイホビー SBUでは、商品の安全と衛生を守るため、SBU内各社（バンダイ、メガハウス、プレックス、シー・シー・ピー、シーズ、サンスター文具）の担当者が集まり、毎月情報交換会を開催しています。トイホビー SBU以外にも参加を募り、グループ内の情報交換を図っています。



情報交換会では、各社の品質保証担当が参加し、さまざまな情報を交換しています。

### ★ 母体施設主催の接客コンテストでの入賞

ナムコでは、さまざまな接客サービス向上の施策に取り組んでおり、健全な売り場の醸成を目指した母体施設主催の接客コンテストにも積極的に参加しています。2013年度も、多くの店舗が評価をいただき、入賞しています。



## 環境配慮

### ★ 環境配慮設計ガイドラインの策定と実行

バンダイでは、環境配慮設計ガイドラインを策定し、各事業部で企画されるさまざまな商品が、より環境に配慮した商品になるよう、運用を行っています。また、2013年度には、環境配慮設計分科会を6回開催しました。



環境配慮のアイデアを企画段階から具体的に記載し、各部で共有します。

### ★ 業務用・家庭用ゲーム機のリサイクル

バンダイナムコゲームスでは再利用、および再資源化を目的に、業務用・家庭用ゲーム機のリサイクルを実施しています。

2013年度実績

- 業務用ゲーム機 約5,000台
- 家庭用ゲーム機 約6.3t



バンダイナムコウィル（特例子会社）によるリサイクル作業

### ★ エコプロダクツ2013でワークショップ開催

バンダイとバンダイナムコゲームスが、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」に出展し、消費者の皆様に活動をご紹介するとともに、エコ意識を高めていただくためのワークショップを開催しました。



バンダイのブースでは、ガシャポンの空カプセルと廃材を使ったカプセルはんこ作りのワークショップを開催しました。



バンダイナムコゲームスのブースでは、タブレットを使ったエコに関するクイズのワークショップを開催しました。

### ★ アミューズメント施設の節電ガイドラインの運用

ナムコは、グループの中でも電力使用量の多いSBUとして、常に課題意識をもち、さまざまな取り組みを行っています。その一つとして、「節電ガイドライン」を策定し、各店舗で運用することにより、省エネを実施しています。

#### ナムコ「節電ガイドライン」夏季節電ポイント

空調節電の方法	ゲーム機器節電の方法	照明節電の方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 空調設定（+1～2度） →室内環境に配慮、お客様の安全・安心、従業員の健康優先</li> <li>● 室内機のフィルター清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器内の照明の消灯 →遊戯に支障をきたさない範囲で</li> <li>● 機器の照明のLED化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 店頭看板・サイン関係の消灯 →営業中・節電中の告知パネル掲示</li> <li>● 照明の点灯数削減 →特にバックヤードの照明減灯</li> <li>● 省エネ器具への変更</li> </ul>
3～8% 電力削減	1～3% 電力削減	5～10% 電力削減



## コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー

### ★ グループ倫理情報交換会を開催

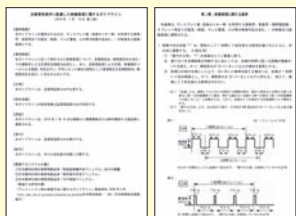
トイホビー SBUでは、倫理表現の統制のため、研修や開発担当者への指導を適宜実施しています。また、他社事例や社内事例を蓄積し、倫理判断基準も適宜見直すと同時に、トイホビー SBU以外の担当者との情報交換も活発に行っています。



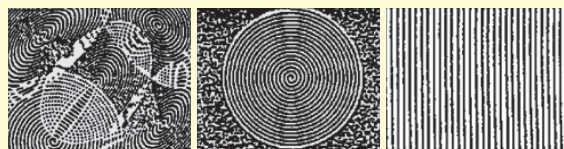
トイホビー SBU各社の担当者が集まり、情報交換を行いました。

### ★ 光感受性発作に配慮した映像表現

バンダイナムコゲームスでは、光感受性発作へ対応する社内向けのガイドライン「光感受性ガイドライン」を策定しています。2013年度には対象範囲を拡大（AM機器のLED照明等）、その他製品を制作した後のチェック（HFPA:Harding Flash & Pattern Analyzer）への言及等を盛り込んだ内容への改訂を実施しました。



光感受性発作に配慮した映像表現に関するガイドライン



規則的なパターン模様が画面大部分を占めることは避ける必要があります

## サプライチェーン管理

### ★ マンガを使ったCOC監査の啓発と浸透

バンダイでは、安全で品質の高い商品をお届けするため、生産を支える従業員の労働環境整備が必要と考え、すべての海外の生産委託工場でCOC\*監査を行っています。その取り組みの一つとして、現地で働く従業員にもわかりやすいよう、マンガ形式で意識啓発や施策の浸透を図っています。

\* Code of Conduct : 行動規範



マンガ形式で制作されたCOCマニュアル

### ★ グリーン審査・COC監査の実施

バンダイナムコゲームスでは、2007年より有害化学物質混入リスクの低下を目的に、国内外の取引先における化学物質管理体制の確認（グリーン審査）を実施しています。

2013年度からは従来からのグリーン審査に加えて、海外生産委託工場における労働環境の確認（COC監査）も実施しています。



グリーン審査の様子



海外生産委託工場における作業の様子

# バンダイナムコグループの 被災地支援活動

バンダイナムコグループでは、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下SCJ）とパートナーシップを結び、東日本大震災被災地の子どもたちに向け、継続的な支援活動を行っています。  
また、グループ各社でも、さまざまな活動を行っています。



## プラモデル教室の開催

### バンダイナムコグループ

岩手県山田町、宮城県石巻市、福島県相馬市で、「機動戦士ガンダム」などのプラモデル作りを行いました。



## ふくしまキッズ博への参加

### バンダイ

福島県福島市で開催された「ふくしまキッズ博」に参加し、ハイパーヨーヨーやロボット玩具の合体体験会などを実施しました。



## ミニコンサートを開催

### キャラ研

宮城県仙台市で「ジャッキーとうたおう! おどろろ! ミニコンサート」を開催しました。ジャッキーのオリジナルソングを子どもたちと一緒に思いっきり歌って踊りました。



## ジャッキーの工作教室の開催

### バンダイナムコグループ

岩手県山田町、福島県相馬市で、絵本「くまのがっこう」のジャッキーをモチーフにしたリースや壁掛け、絵本作りを行い、ジャッキーと一緒にダンスなどをしました。



## 東北子ども博への参加

### バンダイ

宮城県の仙台大学で開催された「東北子ども博」へ協賛・参加し、ハイパーヨーヨーのステージショーや、玩具の体験コーナーを展開しました。



## 「ジャッキーの秋の1DAYキャンプ」を開催

### キャラ研

宮城県仙台市で株式会社環境開発様とともに、「ジャッキーの秋の1DAYキャンプ」を2日間に分けて開催しました。子どもたちとご家族と一緒に、音楽やスポーツ、お料理などを楽しみました。



## 「どんぐりひろいバスツアー」を実施

### ナムコ

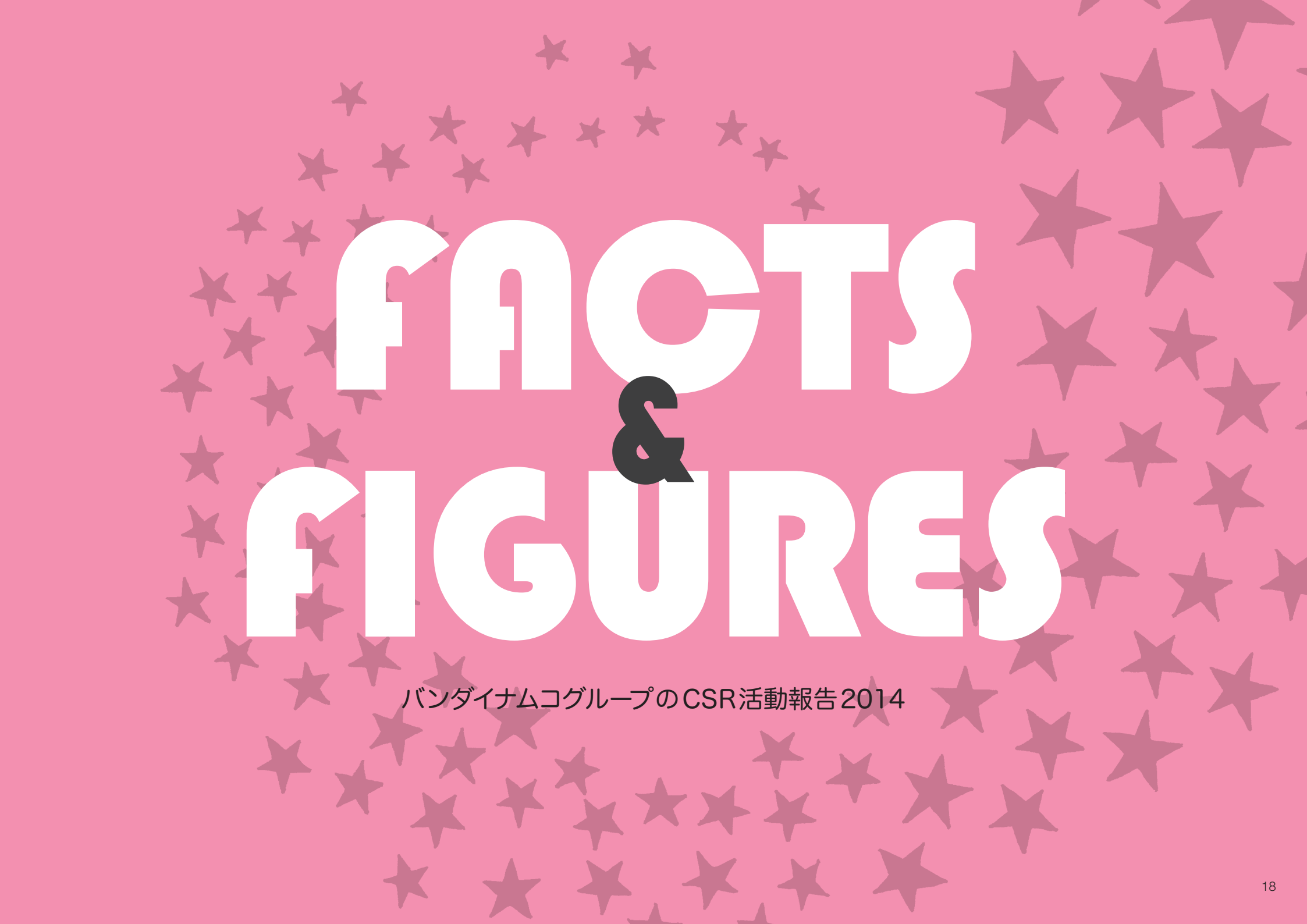
被災地の緑を取り戻す事業「プロジェクトD」に賛同し、岩手県岩手郡、宮城県仙台市で、子どもたちとどんぐり拾いを行いました。どんぐりは全国の子どもたちによって苗木に育てられ、被災地に植えられます。



## 「子ども☆はぐくみファンド」への寄付

上記の活動のほか、2013年度は、株主優待で「寄付」をご選択いただいた株主様とともに、SCJを通じて「子ども☆はぐくみファンド」へ合計1,000万円を寄付しました。寄付金は、被災地のNPOの活動資金として、子どもたちの今と明るい未来づくりに使用されます。





# FACTS & FIGURES

バンダイナムコグループのCSR活動報告2014

# 各SBUの重点取り組みテーマ 2013年度進捗報告

## ★トイホビー SBU ★

CSR重要項目	重点取り組みテーマ	2013年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	安全・安心の追求	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ SBU横断のグループ情報交換会を毎月実施し、情報共有により全体の取り組み向上を図る。</li> <li>★ プロダクトセーフティフォーラム（製品安全に関する展示会）を開催。また、研修、ミステリーコールを実施。</li> <li>★ 協カメメーカーとの勉強会を毎月開催。4月よりオンデマンド配信もスタート。</li> <li>★ 各種業界基準を反映し、バンダイ品質基準の見直しを年2回実施。</li> <li>★ バンダイ製品を生産するすべての最終梱包工場の新規工場監査にて、生産前に監査する運用を開始。また、新規工場監査とCOC監査を統合したBFA監査を開始。</li> </ul>
環境配慮	Act. Now for Future Smiles (笑顔のためにできること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 環境配慮設計、ユニバーサルデザイン、資源リサイクルに関する分科会を隔月開催し、ワークショップや体験会を実施。</li> <li>★ 環境広報の充実（イベント出展、Facebook展開の開始など）。</li> <li>★ 環境配慮設計の実例を分科会で収集、ガイドラインをアップデートし、関係者間で共有。</li> </ul>
コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	コンテンツ・商品における倫理表現の統制	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 倫理に関して、新人研修のほか、2事業部、中国（深セン）の社員向けにも研修を実施。</li> <li>★ 商品における武器の表現に関する見直しを実施。</li> <li>★ グループ情報交換会を実施し、倫理判断事例を共有。</li> </ul>
サプライチェーン管理	労働規範監査（COC監査）	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ バンダイ製品を生産する海外最終梱包工場すべての監査を実施。 ⇒累計187社実施。</li> <li>★ キャラクター情報規制がある著作権元の製品を生産する工場のサプライチェーン把握。 ⇒グループも含め94工場でFAMA管理を実施。</li> <li>★ 東京、深セン、上海の3会場でサプライヤーカンファレンスを実施。また、理解度向上のため「COC漫画」を作成し、配布。</li> </ul>

## ★コンテンツSBU ★

CSR重要項目	重点取り組みテーマ	2013年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	グリーン調達 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 海外の法改正に基づく自社基準の改訂と、サプライヤーへの情報提供。</li> <li>★ 海外を含めたSBU内共通の基準を策定、運用し、連携を図る。 ⇒取扱い製品群が異なる会社は、自社基準で取り組むこととした。</li> </ul>
	品質基準 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ アミューズメント製品の品質向上のため、新ガイドラインを制定。</li> <li>★ 海外生産品の品質向上のため、ブランドガイドラインを制定。 ⇒海外生産方針、拠点の変更に合わせ、さらなる改訂を検討中。</li> <li>★ コンシューマー製品について、各社で自社の品質基準を改訂。</li> </ul>
環境配慮	環境配慮設計への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ エコプロダクツ2013など、消費者向けイベントにてエコアミューズメントに対する評価を収集し、環境配慮設計ガイドラインのアップデートを行う。</li> <li>★ エコラベルの運用開始。 ⇒認定製品が16機種に増加。</li> </ul>
	製品リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 従来の家庭用ゲームに加え、業務用ゲームでのリサイクルも実施。 ⇒2013年度実績 家庭用ゲーム：6.3トン 業務用ゲーム：5,000台</li> </ul>
コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	コンテンツの適切な言語表現の統制	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ バンダイナムコスタジオで、コンテンツの表現に関する注意事項について開発者向け説明会を実施。</li> <li>★ バンダイナムコゲームスで光過敏に関するガイドラインを改訂。</li> <li>★ バンダイナムコオンラインで、未成年をはじめとした消費者保護に関する社内ガイドラインを制定。</li> </ul>
サプライチェーン管理	グリーン審査	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 国内外サプライヤーに対するグリーン審査の実施。 ⇒目標実施率65%超に対し77%。</li> <li>★ グリーン審査の審査システム見直しに伴い、審査の効率化が実現。また、審査員養成のため、外部研修を継続実施。</li> </ul>
	COC監査	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ バンダイナムコゲームスで、業務用ゲームの中国最終組付工場を対象にCOC監査を実施。</li> <li>★ パンプレストで、全工場を対象に調査票の提出を義務づけ。</li> </ul>
	サプライヤーへの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 新規サプライヤーを対象に説明会を実施。 ⇒国内向けについては、グリーン調達基準改訂に伴い2014年度に実施予定。</li> <li>★ 品質保証部ホームページ（お取引先様用専用サイト）の運用。 ⇒事例掲載など、改修作業を随時実施。</li> </ul>

★ アミューズメント施設SBU ★

CSR重要項目	重点取り組みテーマ	2013年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	健全な売場の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 「AOU青少年アドバイザー」資格取得を促進。 ⇒合格者の累計数目標370名に対し380名。 店舗責任者の資格取得率目標95%に対し、91%。</li> <li>★ 「サービス接客検定」資格取得を推進。 ⇒店舗在籍社員の取得率目標96%に対し、94%。</li> </ul>
	青少年の社会学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 企業訪問、職場体験の受入（目標35校）。 ナムコ：10校63名 花やしき：16校64名</li> </ul>
環境配慮	環境データの把握、CO <sub>2</sub> 削減・省エネ施策、省エネ法・温対条例対策、環境意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 海外拠点の環境データ把握率向上のため、データメンテナンスを実施。</li> <li>★ メダルゲーム機3,994台の内照式看板をLED化。 ⇒削減CO<sub>2</sub>排出量：131t-CO<sub>2</sub>/年</li> <li>★ 経済産業省「改正省エネ法」対応。 ⇒原油換算量：計画目標▲6%に対し▲19%</li> <li>★ 地方自治体温暖化対策条例対応。</li> <li>★ エコ検定受験・取得の推進。 ⇒2013年度累計取得者：224名</li> <li>★ COOLBIZ、WARMBIZ、各月給料日NO残業DAYの実施による環境意識啓発。</li> </ul>

★ 関連事業会社 ★

CSR重要項目	重点取り組みテーマ	2013年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】 安全運転により車両事故を抑制し、貨物を遅滞なく届ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】</li> <li>★ 年間5回、ドライバー研修を実施。</li> <li>★ 点呼時の安全指導。</li> <li>★ ドライブレコーダーの全車装着。 ⇒2013年度は乗用車へも装着。</li> <li>★ 安全性優良事業所（Gマーク）の維持。</li> </ul>
	【アートプレスト】 安全・安心の製品提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>【アートプレスト】</li> <li>★ 全商品生産の把握のため、システムを導入、運用開始。</li> <li>★ 出荷前、量産品の検査および販促商品の検査を実施。</li> <li>★ 情報管理の強化のため、データセンターによる情報管理を徹底。</li> </ul>
環境配慮	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】 車両より排出するCO <sub>2</sub> の抑制と事業所の節電によるCO <sub>2</sub> 排出の抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】</li> <li>★ 車両代替時の低公害車の導入。</li> <li>★ エコドライブ活動継続による平均燃費の維持。 ⇒5.5km/Lの維持。</li> <li>★ 事務所・倉庫の不要照明消灯による節電継続。</li> </ul>
サプライチェーン管理	【アートプレスト】 使用部材の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>【アートプレスト】</li> <li>★ 使用部材安全データシート（MSDS）にて部材確認の徹底。</li> <li>★ 使用部材状態での第三者機関での検査を徹底。</li> <li>★ オフィスの節電のため、サーバーを集約化。</li> </ul>
	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】 一貫物流サービスの展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】</li> <li>★ アメリカ国内の流通構築と安定運営。</li> <li>★ 海外通販事業の拡大支援。</li> <li>★ アミューズメント施設への景品物流の提供。 ⇒取り込み量が伸びず、今後さらなる効率化を図る。</li> </ul>
	【アートプレスト】 工場登録の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>【アートプレスト】</li> <li>★ 生産業者に対し、各社品質基準に準じた指導の徹底。</li> </ul>

# 人事関連情報

各SBU主幹会社計(バンダイ・バンダイナムコゲームス・ナムコ)

## ★雇用形態別従業員数

(名)

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
正社員	男性	2,999	2,892	2,866	1,972	1,861
	女性	761	741	751	614	580
準社員	男性	1,331	1,208	1,156	1,039	1,043
	女性	857	770	754	669	768
契約社員	男性	137	40	50	53	37
	女性	52	39	46	41	45
臨時雇用者数	男性	663	569	544	453	660
	女性	664	619	703	464	938
合計	男性	5,130	4,267	4,616	3,517	3,601
	女性	2,334	2,611	2,254	1,788	2,331
	合計	7,464	6,878	6,870	5,305	5,932

注：バンダイナムコゲームスとバンダイナムコスタジオの分社化により、2012年度から従業員数が大幅に減少しています。

## ★女性管理職数

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
女性管理職数(名)	71	74	88	86	86
全社員に占める割合	1.0%	1.1%	1.3%	1.6%	1.4%

## ★新卒採用数

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
新卒採用数(名)	105	88	72	52	58
うち女性採用数(名)	38	30	30	26	25
女性比率	36.2%	34.1%	41.7%	50.0%	43.1%

## ★障がい者雇用率(グループ全体)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
障がい者雇用率	1.79%	1.88%	1.81%	1.83%	1.96%

## ★平均データ

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
平均勤続年数(年)	8.3	8.2	8.9	9.5	10.6
平均年齢(歳)	38.0	38.0	38.6	39.4	39.6

## ★育児・介護休業取得者数

(名)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
育児休業取得者数	105	94	101	107	93
うち男性	1	4	2	8	7
介護休業取得者数	2	1	0	1	0
うち男性	0	0	0	0	0

## ★年次有給休暇取得率

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
年次有給休暇取得率	59.5%	60.4%	60.5%	53.3%	52.6%

## ★労災件数

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
労災件数(件)	64	63	46	47	50

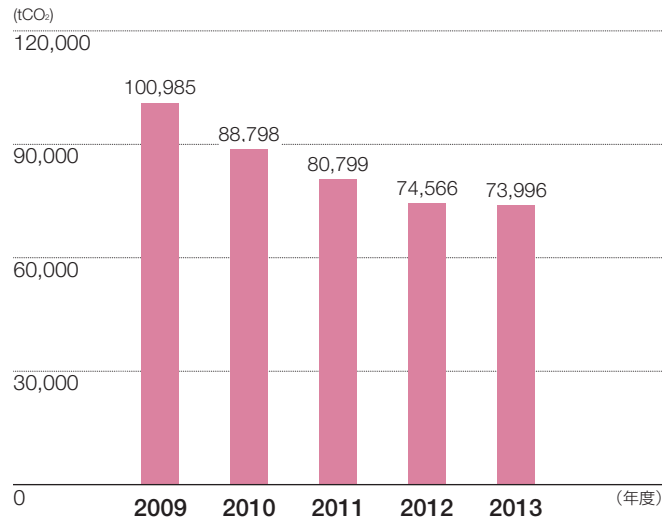
## ★ワークライフバランス実現のための制度一覧(特に法定以上のもの)

名称	概要
育児休業	1歳6ヶ月に達する年の3月31日まで、または満2歳に達する日まで取得可能
育児援助措置	小学校3年生終了まで、時短勤務や時間外労働・深夜労働の免除が利用可能
妻出産休暇	男性社員は、妻の出産時に5日間の特別有給休暇
フレックスタイム制度	所定労働時間を1日ではなく月で定める
育児フレックスタイム制度	中学校就学開始期に達するまでの子を養育する社員は、所定労働時間を1日ではなく月で定める
ファミリーサポート休暇	1年に最大2日間まで利用可能な休暇(子の入学式、卒園式、一親等内の誕生日、本人結婚記念日等)
キッズルーム設置	小学生の子どもが長期休暇中(夏休み等)に一人で居場所がない場合に、社内で待機できる部屋を確保
出産・子育て支援金の支給など	第一子、第二子の誕生時に、それぞれ20万円支給 第三子以降の誕生時に、子1人あたり200万円支給 (支給には、連続した1週間以上の育児休業取得が要件)

注：グループ各社によって導入している制度は異なります。

# 環境関連情報

## ★ バンダイナムコグループCO<sub>2</sub>排出量の推移



バンダイナムコグループでは、各SBUにおいて、年度ごとに削減目標を設定し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

結果、2013年度も前年度に比べ、削減することができました。

### ★ 環境マネジメント対象範囲

バンダイナムコグループ全社

### ★ 環境パフォーマンスデータ収集範囲

バンダイナムコグループ連結対象会社

### ★ 管理基準

総排出量

## ★ 2013年度環境パフォーマンスデータ一覧

測定項目	単位	年度	バンダイナムコホールディングス	トイホビーSBU	コンテンツSBU	アミューズメント施設SBU	関連事業会社	合計		
燃料	揮発油 (ガソリン)	営業車使用分	ℓ	2012	0	68,820	63,577	54,236	73,655	260,288
		2013	0	100,432	63,633	38,409	71,728	274,202		
	上記以外*	ℓ	2012	0	0	10,360	0	3,209	13,569	
		2013	0	0	10,260	0	2,544	12,804		
	灯油*	ℓ	2012	0	0	0	104,340	13,670	118,010	
		2013	0	0	0	57,063	10,542	67,605		
	軽油	営業車使用分 (ディーゼル車)	ℓ	2012	0	51,985	0	0	941,412	993,397
			2013	0	42,596	0	0	884,303	926,899	
	上記以外*	ℓ	2012	0	0	0	0	1,305	1,305	
		2013	0	0	0	0	365	365		
	A重油*	ℓ	2012	0	4,860	0	0	0	4,860	
		2013	0	5,330	0	0	0	5,330		
石油ガス	液化石油ガス (LPG)	営業車使用分以外*	t	2012	0	4	0	5	9	18
			2013	0	147	0	7	7	165	
可燃性天然ガス	その他可燃性天然ガス	営業車使用分	m <sup>3</sup>	2012	0	0	0	0	60,517	60,517
			2013	0	0	0	0	45,261	45,261	
	上記以外*	m <sup>3</sup>	2012	0	0	9,814	0	0	9,814	
		2013	0	0	9,453	0	0	9,453		
水	用水使用量		m <sup>3</sup>	2012	992	69,668	44,208	85,608	6,528	207,004
	2013		918	85,628	41,683	86,816	6,707	221,752		
	温泉水汲み上げ量		m <sup>3</sup>	2012	0	0	0	0	0	0
	2013		0	0	0	0	0	0		
	排水量		m <sup>3</sup>	2012	702	70,760	32,456	85,604	6,502	196,024
	2013		688	85,056	31,665	86,821	6,707	210,937		
電気*	都市ガス*		m <sup>3</sup>	2012	12,439	25,488	468,002	892,076	88	1,398,093
	2013		13,575	29,169	512,097	793,523	69	1,348,433		
	蒸気 (産業用)*	GJ	2012	0	0	0	0	0	0	
		2013	0	0	0	0	0	0		
	蒸気 (産業用除く)*	GJ	2012	0	0	0	1,646	0	1,646	
		2013	0	0	0	0	0	0		
	温水*	GJ	2012	0	0	301	1,313	0	1,614	
		2013	0	0	363	1,258	0	1,621		
	冷水*	GJ	2012	99	0	1,608	6,407	0	8,114	
		2013	0	0	1,867	4,055	0	5,922		
	廃棄物	一般廃棄物	kg	2012	5,199	382,325	174,685	1,169,615	112,016	1,843,840
			2013	12,019	415,127	172,707	1,035,931	113,768	1,749,552	
産業廃棄物		kg	2012	1,671	927,324	268,047	1,131,503	12,573	2,341,118	
		2013	1,289	963,750	258,059	2,401,801	88,891	3,713,790		
リサイクル量		kg	2012	3,037	652,973	143,564	88,208	3,491	891,273	
		2013	2,229	691,875	117,269	58,504	6,131	876,008		
コピー用紙	kg	2012	7,379	54,744	56,971	22,508	21,954	163,556		
	2013	5,538	61,256	54,901	22,947	25,848	170,490			

注：バンダイナムコグループでは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、上記一覧の\*印の項目によりCO<sub>2</sub>排出量を算定しています。

# コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

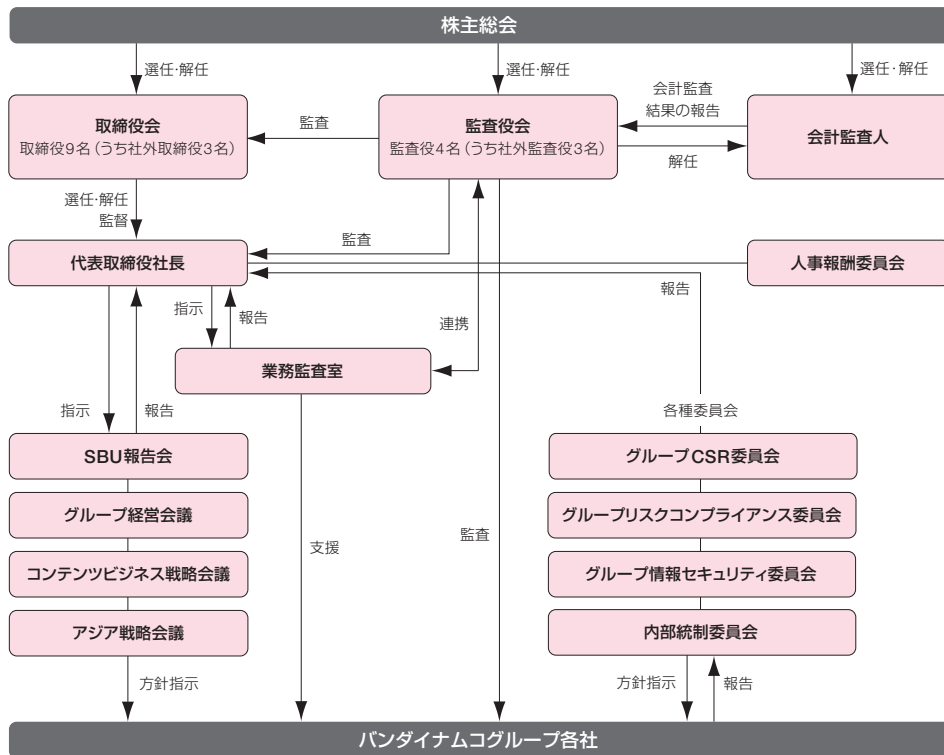
## ★コーポレート・ガバナンス★

### ★方針・考え方

バンダイナムコホールディングスは、企業活動を支えるあらゆるステークホルダーの利益を最重視しており、長期的、継続的な企業価値の最大化を実現するうえで、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題であると認識しています。社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指し、経営の健全性・透明性・効率性を高めるとともに、最適な情報開示を可能とするコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。

### ★コーポレート・ガバナンス体制

バンダイナムコホールディングスの取締役会は取締役9名で構成されており、うち3名は社外取締役として、経営の監督機能の強化に努めております。また経営環境の変化に迅速に対応するとともに、取締役の責任をより一層明確化することを目的に、取締役の任期を1年内としています。



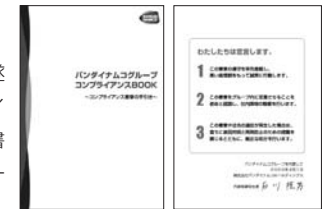
## ★コンプライアンス★

### ★方針・考え方

バンダイナムコグループは、「世界で最も期待されるエンターテインメント企業グループ」に求められる、コンプライアンスに関する考え方を明確化し、グループ企業への周知徹底を図っています。すべての国・地域の法律を遵守し、公正な競争のもとで利潤を追求すること、企業活動を通じて広く社会に貢献することが企業の重要な使命であるとの認識に立ち、バンダイナムコグループでは2007年4月に「バンダイナムコグループ コンプライアンス憲章」を制定し、これに基づき「バンダイナムコグループ コンプライアンス宣言」を行いました。

### ★コンプライアンス意識の醸成

バンダイナムコグループでは、グループすべての役員および社員が業務遂行において遵守すべき8項目を掲げた「バンダイナムコグループ コンプライアンス憲章」を制定、同憲章をグループ全社で日々実践するため、その手引書となる「バンダイナムコグループ コンプライアンスBOOK」を作成し、グループすべての役員および社員に配布しています。



2013年度は、グループすべての役員・社員を対象に、「バンダイナムコグループ コンプライアンスBOOK」に基づくeラーニングを4回、コンプライアンスに対する意識調査を1回実施し、延べ約15,000名が受講しました。また、グループ各社において、各項目に特化した独自のコンプライアンス研修を実施しました。今後も、コンプライアンス意識の醸成とコンプライアンス体制のさらなる強化のため、定期的を実施していきます。

### ★リスクマネジメント

バンダイナムコグループでは、健全な事業活動の継続におけるリスクマネジメントの重要性を認識し、グループリスクコンプライアンス規程を制定し、役員、社員一人ひとりが危機発生時に取るべき行動の指針を示しています。また、バンダイナムコホールディングス社長を委員長とするグループリスクコンプライアンス委員会を設置し、リスクの把握、該当危機発生時の未然防止に努めるとともに、危機発生時に迅速な対応がとれる体制の整備に努めています。さらに、グループ各社において法令違反が発生したことが確認された場合には、グループリスクコンプライアンス規程に基づき、各社のコンプライアンス委員会からグループリスクコンプライアンス委員会に報告を行います。

今後も、社会の動向などを的確に把握し、企業経営をめぐる多様なリスクに迅速・適切に対応できるよう、リスクマネジメント体制の強化を図っていきます。

### ★内部通報制度の整備・運用

バンダイナムコグループ各社では、それぞれ社内規程を制定し内部通報制度を整備・運用しています。社員が法令違反を発見した場合、上司に相談するか、あるいは内部通報制度（ホットライン）を通じて代表取締役、社外顧問弁護士、社内相談窓口、監査役のいずれかに報告することを規定しています。公益通報者保護法などに基づき、通報を行ったことにより不利益を受けることがないように対応を図っています。内部通報制度により、法令違反の発生が明らかになった場合、各社のコンプライアンス規程に基づき、事案に応じて適切な対応を行います。



# リスクマネジメントと情報開示

## ★ バンダイナムコグループのBCP（事業継続計画）★

バンダイナムコグループでは、重大な災害や事故などの発生に備え、グループの基本方針を策定し、BCP（事業継続計画）の作成を行っています。また、eラーニングによる社員教育などにも着手し、お客様の安全確保や、早期に事業の再開ができるよう、対策を行っています。

### バンダイナムコグループBCP（事業継続計画）基本方針 ～「夢・遊び・感動」を提供しつづけるために～

バンダイナムコグループの使命は、一人ひとりの心の中に生まれた「夢・遊び・感動」のアイデアを、みんなの手でカタチにして、一人ひとりのお客様の心を響かせることです。

そして、その「夢・遊び・感動」は人の心を癒し、励まし、世界にひろがることで、世の中を変えることも、未来を変えることもできると信じています。

バンダイナムコグループは、予想される重大な災害・事故等の発生に際し、人命を尊重するのはもちろん、いち早く事業の再開・継続を行い、一人でも多くのお客様に「夢・遊び・感動」を提供しつづけたいと考えています。

- グループ従業員とその家族、お客様の安否確認・安全確保を最優先します。
- 早期の事業復旧を行い、商品・サービスの提供責任を全うします。
- 地域社会と連携し、復旧・復興を支援します。

## ★ 情報開示 ★

バンダイナムコグループでは、経営の透明性を高めるため、さまざまな形で経営に関する情報を開示しています。

### ★ 決算説明会の開催

決算発表後に、機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、決算説明会を開催しており、中期計画等についても、その機会にご説明をさせていただいています。また、バンダイナムコホールディングスのホームページにて、発表内容の動画配信や、当日の配布資料、質疑応答に関する書類がダウンロードできるようにになっています。



### ★ IR・投資家情報はこちら

→ <http://www.bandainamco.co.jp/ir/index.html>

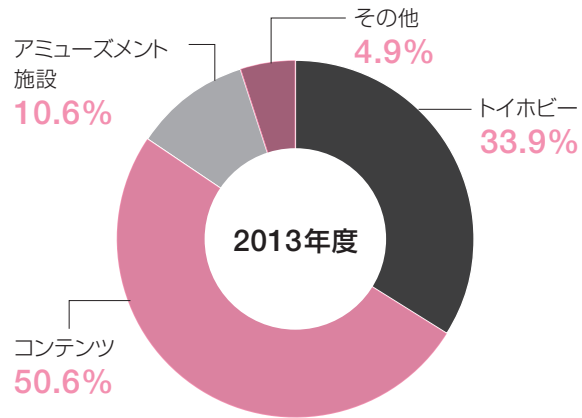
### ★ 株主総会の開催

バンダイナムコホールディングスでは、株主総会を決議の場だけでなく、株主の皆様と対話ができる場として、積極的なコミュニケーションを心がけています。株主総会終了後には取締役と対話できる時間を設けるとともに、商品・サービスの展示等を行いました。



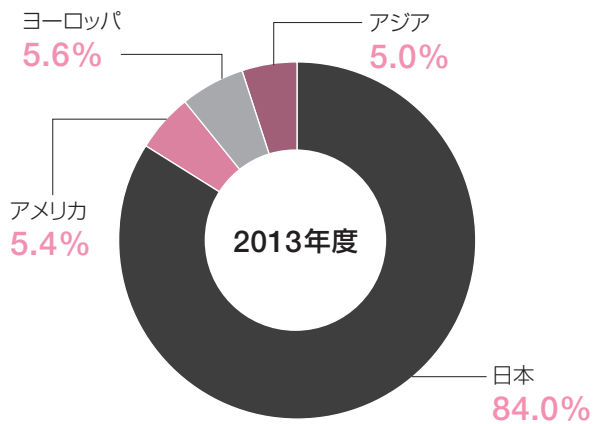
# 財務・業績ハイライト

## ★ 事業の種類別売上高比率



注：内部取引の消去前の売上高で計算しています。

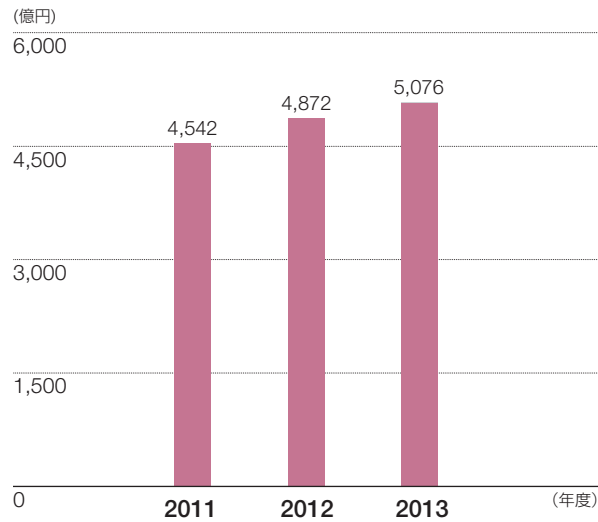
## ★ ご参考：所在地別売上高比率



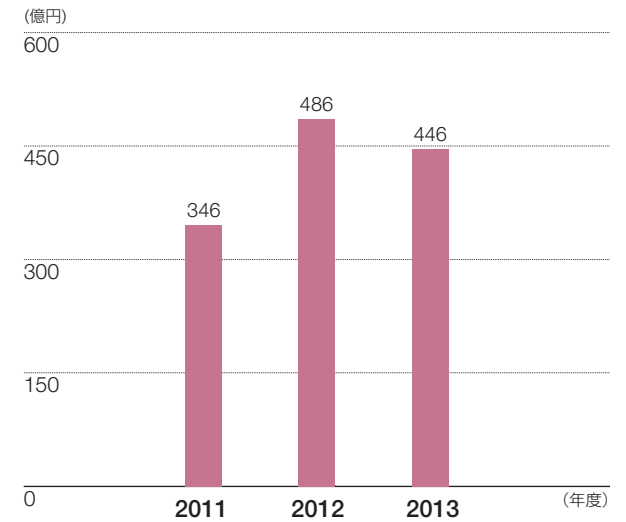
注1：管理数値をベースとした概算値です。

注2：外部顧客に対する売上高で計算しています。

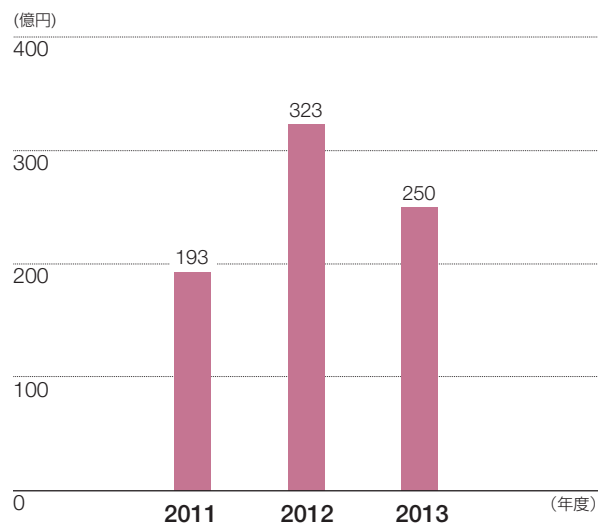
## ★ 売上高



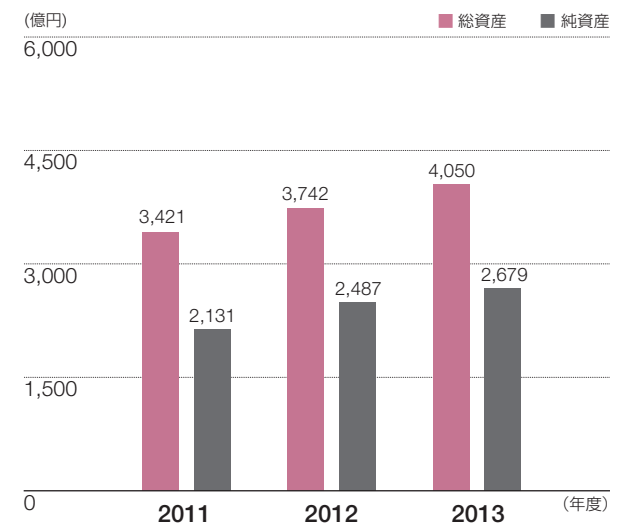
## ★ 営業利益



## ★ 当期純利益



## ★ 総資産・純資産



## 会社概要 (2014年3月31日現在)

- |   |  |
|---|--|
| <p>★ <b>社名</b><br/>株式会社バンダイナムコホールディングス<br/>BANDAI NAMCO Holdings Inc.*</p> <p>★ <b>本店所在地</b><br/>〒140-8590<br/>東京都品川区東品川4-5-15<br/>バンダイナムコ未来研究所</p> <p>★ <b>資本金</b><br/>100億円</p> | <p>★ <b>事業内容</b><br/>バンダイナムコグループの中長期経営戦略の立案・遂行<br/>グループ会社の事業戦略実行支援・事業活動の管理</p> <p>★ <b>グループ社員数</b><br/>7,151名</p> <p>★ <b>連結対象会社数</b><br/>子会社66社<br/>持分法適用会社6社</p> |
|---|--|

\*2014年6月23日より、社名の英文表記を「NAMCO BANDAI Holdings Inc.」から変更しました。

## 編集方針

「Fun for the future! バンダイナムコグループのCSR活動報告2014」は、グループ全体のCSR（企業の社会的責任）に関する取り組みを、ステークホルダーの皆様にはわかりやすく報告することを目指して発行しています。2013年度は、「バンダイナムコグループCSR重要項目」をもとに、各戦略ビジネスユニット（SBU）で策定している取り組みテーマのなかから代表的な取り組みを中心に報告する冊子版と、より詳細な活動報告・情報開示を目的としたWEB版で構成しています。

**対象期間** 2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）※一部、2014年度に開始した活動も含んでいます。

**対象範囲** グループ会社における持分法適用会社を除く連結対象会社

バンダイナムコグループのキャラ研が手がける人気絵本シリーズ「くまのがっこう」は、女の子くまジャッキーと11匹のおにいちゃんくまが繰り広げる日常を描いた物語です。  
“何気ない一日の幸せ”を大切にしたいが、私たちのCSR活動と重なり、ジャッキーをイメージキャラクターとして、CSRコンセプト「Fun for the future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」を広くアピールしています。



## CSR活動報告2014 WEB版のご案内

冊子の報告内容に加えて、社会・環境の側面に関する具体的な取り組みについて詳しく報告しています。

### WEB版

#### 活動内容の詳細報告

<http://www.bandainamco.co.jp/social/index.html>



### WEB CONTENTS

#### ★ グループのCSR活動

バンダイナムコグループのCSR  
重要項目について&進捗報告  
コーポレート・ガバナンス  
コンプライアンス  
環境とともに  
社員とともに

#### ★ 各SBUの取り組み

トイホビー SBUのCSR活動  
コンテンツSBUのCSR活動  
アミューズメント施設SBUのCSR活動  
関連事業会社のCSR活動  
  
お客様とともに  
地域社会とともに  
環境とともに  
社員とともに

### 冊子版

主な取り組みテーマの特集



参考にしたガイドライン：GRI (Global Reporting Initiative)

©BANDAI ©創通・サンライズ ©BANDAI,WIZ ©石森プロ・テレビ朝日・ADK・東映 ©BANDAI ©やなせたかし／フレーベル館・TMS・KIV



株式会社バンダイナムコホールディングス

〒140-8590 東京都品川区東品川4-5-15

バンダイナムコ未来研究所

URL: [www.bandainamco.co.jp/](http://www.bandainamco.co.jp/)

発行日 2014年8月(前回2013年8月)

